

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

第三者評価の判断基準

福祉サービス種別 保育所
事業所名 (明星保育園)

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■ 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。 ■ 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 ■ 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。 ■ 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。 	<p>○保育理念、保育方針、保育目標を保育園パンフレットや入園のしおりに明記して、ランドデザインとして具体的な取り組み内容も8つ掲げ、全体的な計画の取り組みが一目で解りやすく示されていました。</p> <p>○毎月振り返りを行ない、子どもの育って欲しい姿を確認する中で、園内研修にも取り上げるなどして、全職員が参画した取り組みが行なわれ、追記することで次年度にも繋げ、理念・方針・目標に基づいた全体的な計画編成で実践されていました。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○冷暖房を完備して、空気清浄、加湿、除湿等も整備された環境となっていました。</p> <p>○特にトイレは、午前・食後・おやつ前・夕方と4回掃除するなど、徹底した衛生管理に努めていました。</p> <p>○遊具や家具等の素材にこだわり、木をモチーフにした東屋・机・椅子・棚・本箱・下駄箱・玩具、砂場のふちに至るまで、木の温もりの感じられるように配慮し、安心して寛げる環境を整えていました。</p> <p>○必要な時に使えるようにパーテーションを準備したり、クッションなどを置くなどして、個々に合わせたスペース作りやリラクスできる環境作りにも配慮していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○人権委員会を設けて、人権保育に根差した子ども目線で気持ちを捉え、個に寄り添った課題を挙げてチェックシートを作成するなど、具体的対応を実践していました。</p> <p>○家庭環境の違いをくみ取り、ありのままの個性を受け入れ、子どもの主体性を重んじた方針を掲げて、コロナ禍で保護者の就労と子育ての両立を支援するため、子どもの最善の利益を優先させた保護者支援を行っていました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○自分でやろうとする姿を見守り、時にはパーテーションを活用し、主体的に動けるように時間を作り、環境を整えていました。</p> <p>○午睡の時間帯も個々に応じた時間差保育を実施したり、主体的に動くことが出来るように保育室内を導線で結び、身につくまで確認を怠らない、徹底した取り組みを行っていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○保育士が主導にならない様に、子ども主体の保育を常に目指して、子どもの力を導き出す援助が継続されていました。</p> <p>○園庭にある遊具では、コンクリートのすべり台から芝山に変更し、夏も芝滑りを楽しめるように工夫したり、園庭の片隅には東屋を新設して、遊びの中でもほっと一息つけるような場所作りをして、今後の保育に繋げる工夫がされていました。</p> <p>○廊下に、インコやウサギが飼育されていたり、絵本の並んでいる本棚やソファが置いてあったり、テニスボールですり鉢に入ったもみ殻のついた米を「もみすり」したり、クラス内で絵を描いている数名の集団がいるなど、設定保育ではなく、個々それぞれが興味をもって夢中に遊んでいる様子が伺えました。</p> <p>○近所の協力もあり、田んぼを借りて毎年米作りを体験したり、近所の山へ水筒を持って探索に出かけたり、「信州やまほいく」の一環として社会体験の機会を設けていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○食事・遊び・午睡のスペースを分け、外気に触れられるようにベランダにも広いスペースを確保して、自由に過ごせる環境を整えていました。</p> <p>○手作り玩具を準備したり、興味のあるおもちゃの数を揃えたり、ゆったりと遊べるスペースを整えていました。</p> <p>○保護者用アプリを設け、保育システムコードモンを導入して、保育園からの情報を流し、離乳食・ミルクの量・午睡時間等、具体的に伝えて家族との連携は密にとれていました。</p>
			⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分できるとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもが自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○子ども主体に動けるように、子どもの遊んでいる様子を観察して、更に興味や関心に繋がれるような道具や材料、玩具などを準備し、一人ひとりの子どもの自我の育ちを見守ることで、自発的な探索活動に繋がれるような工夫がされていました。</p> <p>○芝山の勾配を全身を使って滑り降りたり、虫を探したり、遊びの中から育む保育を展開していました。</p> <p>○月齢や発達に合わせてグループ分けをして、生活リズムをベースとして保育スペースを分けたり、個別の活動量に配慮するなど、個々の記録や振り返りを大切にしながら日常的観察の継続と、保育士間の協力体制が整い、適切な対応を常に探求していました。</p> <p>○異年齢児と散歩する機会を設けたり、園庭での遊びからふれあいの場を見守るなど、その時々に関わりを大切に対応していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○准教授にコーディネーターとして入ってもらい、クラス担当を中心にした体制で、児童心理や育ち合いを促す保育を学びながら、日々の保育に取り組んでいました。</p> <p>○子どもの創造性を育むように保育士からの発信ではなく子どもの気づきを大切にしたり、「信州やまほいく」を推進し地域で田んぼを借りて米作りをしたり、ジャンボタクシーを借りて裏山へ探索に出かけたり、地域に根差した活動にも取り組んでいました。</p> <p>○小学校行事への参加はもちろんですが、近くにあるお年寄りの施設に散歩の途中で立ち寄りたり、卒園生との集いを開くなど、独自の関わり方法を模索して実践していました。</p>
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○インクルーシブ保育を目指し、バリアフリー化も考えていたり、実際に個別の配慮に留意した保育にも取り組んでいました。</p> <p>○障がいを持っている子どもも集団の中で一緒に保育出来るように、個別指導計画を作成し、専門機関との連携をとったり、定期的にケース検討会を開いて取り組んでいました。</p> <p>○日々の表情や様子から、状況・状態が良いのか判断し、保護者との連携をとりながら、個別重視にならないように配慮した保育環境を整えていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<p>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>■ 63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>○ゆったりとした雰囲気の中で、動・静のバランスが取れるように配慮した環境を整えていました。</p> <p>○毎日の様子を日誌に記入して、振り返りを行っていました。</p> <p>○延長保育のおやつは手作りで提供して、子どもたちの楽しみに繋がるように配慮されていました。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a)	<p>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>○小学校との連携は、業務計画や全体的な計画にも明記され、小学校の先生が教育相談で保育園を訪れたりして、就学前の早い時期から連携を図っていました。</p> <p>○年長担任が学校との連携を図り、小学校を訪問して授業や給食の様子等写真に撮って、子どもに見てもらったり、小学校まで散歩をして訪ねて行き、雰囲気を味わう機会を設けていました。</p> <p>○幼児年数での研修会、鼎地区の幼保小連絡会を設けて、就学に向けた書類を作成し、保育要録で保育所での子どもの様子を伝えていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○健康管理に関するマニュアルが整備され、細かな異常にも気遣い、アプリで保護者との連絡をとるなど、安心して利用できる環境を整えていました。</p> <p>○入園時に既往歴など、子ども一人ひとりの健康状態を情報共有して、日々の変化もアプリを使って共有し、適切な対応が図られていました。</p> <p>○全職員でSIDSに関する知識を学び、実際に午睡時には、どのような向きで寝ているかを時系列で確認し、呼吸のチェックを行っていました。</p> <p>○SIDSについては、入園のしおりに明記したり、ポスターを掲示するなどして保護者への伝達にも努めていました。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○健康診断、歯科検診共に年に2回実施され、家庭への結果報告も徹底され、その後の治療への受診も助めていました。</p> <p>○子どもたちへも、紙芝居や模型を使うなどして、わかりやすく検診の大切さを伝えていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギー疾患のある子どもについては、入園時に医師の指示書を必ず付けてもらい、詳しい内容について把握し、ケースにあった食事の提供に努めていました。</p> <p>○アレルギーのある子どもへの提供時は、別のトレイにのせたり、皿の色を変えるなど工夫して、間違いが起らないように徹底した対応がとられていました。</p> <p>○アレルギー症状についての確認は、毎年行ない、保護者、担当医との連携を図り、エビペン使用についてなども職員全員で周知を図り、対応マニュアル書もわかりやすい所に整備されていました。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○給食検討委員会が中心となり、地元の食材を使用し、生産者の顔がわかるようにしたり、県外の名産物を取り入れるなど、毎日の食事が楽しめるような工夫がされていました。</p> <p>○給食室前にその日の昼食メニューを実際に展示して、触れてみたりして一目で楽しめる工夫がされ、子ども達の日々の楽しみの1つとなっていました。</p> <p>○発達の特徴として、特定なものしか摂取出来ない子どもの為に、特定の食材を毎日提供したり、子どもの発達に合わせた食事の提供に努めていました。</p> <p>○古い食器の見直しを行ない、汁物の食器をお椀に変更するなど、徐々に新しい食器への切り替えを行っていました。</p> <p>○食事は年齢に合わせて自分で選んでもらうように対応していました。</p> <p>○未満児は担当制になっており、テーブルごとにおひつが用意され、食べられる分量を子どもが決めていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="896 193 1590 244">■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <li data-bbox="896 308 1590 339">■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <li data-bbox="896 427 1590 478">■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 <li data-bbox="896 550 1590 601">■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <li data-bbox="896 667 1590 699">■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <li data-bbox="896 786 1590 818">■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <li data-bbox="896 906 1590 957">■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <li data-bbox="896 1029 1590 1080">■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p data-bbox="1601 193 2038 292">○昼食メニューの食材を給食室前に毎日展示して、子ども達が自由に触れられるようにして、子どもの興味を誘う事で食育へと繋げていました。</p> <p data-bbox="1601 323 2038 422">○食材は、出来る限り県内産のものを使用し、生産者がわかる地元の農家より米や野菜を購入して、園の食卓に並べられています。</p> <p data-bbox="1601 454 2038 553">○食事の時間に栄養士や調理師が各クラスを見て回ることで、実際の子ども達の反応を観察して、その後の食事作りに反映させていました。</p> <p data-bbox="1601 585 2038 684">○感覚過敏や強いこだわりのある子どもに合った食事の提供や、毎日特定の物しか食べられない子どもにも適切な支援をしていました。</p> <p data-bbox="1601 716 2038 815">○季節の旬な料理や、地方の郷土料理を取り入れた食を楽しめるように工夫がされていました。</p> <p data-bbox="1601 847 2038 946">○米作りを体験する取り組みも実際に行ない、すり鉢とテニスボールで「もみすり」を行なって遊んでいる子ども達の様子もみられました。</p> <p data-bbox="1601 978 2038 1077">○行事に合わせた子ども達がワクワクするようなメニューを考え、畑活動として野菜を栽培し実際に皮むきを行なったり、栗やつくし、よもぎ等を実際に拾い集めて季節の食物を知るなど興味に繋がる実践をされていました。</p> <p data-bbox="1601 1109 2038 1153">○毎日の給食を写真付きでアプリで配信し、家族との共有を図っていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○写真で子どもの様子が確認できるシステム「コドモンアプリ」を導入して、連絡帳も写真付きで配信され、保護者からも好評価を得ていました。</p> <p>○毎日の子どもの様子をアプリで配信する事で、子どもの成長を保護者と共有でき、自宅に戻ってからの家族との話題も増えていました。</p> <p>○園として新たな取り組みを開始する前に、保護者への説明を丁寧に行なうようにし、保護者アンケートを取るなど、保護者の理解を得た上での実行とする信念をもって何事にも取り組んでいました。</p> <p>○毎日のアプリでの配信は、個人記録として転用して記録に残せるようになっていました。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○登降園時は、立ち話は極力しないようにして、子どもに手をかける事を第一に考えるといった伝統的方針を貫き、この方針が今回のアプリ導入を決めた1つの要因となっていました。</p> <p>○気になる事がある際は、ご家族に保育士の方から声をかけるようにして、信頼関係を築いていました。</p> <p>○インクルーシブ保育を目指し、障がい特性を持った子どもさんを預けるご家族に、真摯に向き合い親の気持ちに寄り添った対応に心がけていました。</p> <p>○認定こども園を目指し、現代社会において保護者の就労応援が出来るように、より保護者のニーズに応えられる体制づくりを目指していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○人権委員会を中心とした研修会が開かれ、発育測定時に体の様子を確認したり、相談できない家族の様子を見極め、家族との信頼関係を深めるように努めていました。</p> <p>○経済的な問題や、就労の問題を抱えている場合には、就労支援センターに繋げる仕組みもあり、家庭の養育状況も把握した支援体制も整っていました。</p>
A	3 保 育 の 質 の 向 上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○週に1回のクラス会による振り返りは、アプリを活用したり、毎日のすき間時間に語り合う場を設けるなど、常に情報交換を行なう体制が整っていました。</p> <p>○複数担任で視覚での振り返りを行なえるように、ipadを使用し情報を共有しながら、効率的な会議を開いていました。</p>